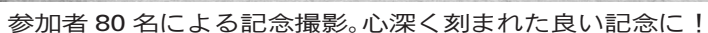


発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話
03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 内藤 留幸
編集主筆 竹澤 知代志



教団の教師として宣教を共に担う

二〇〇八年度の新任教師オリエンテーションが、六月三日（月）から五日（水）まで静岡県伊豆市の天城山荘にて開催された。主題は例年通り「教団の教師として宣教を共に担う」。新任教師が五七名、関係者を含めると計八〇名が参加した。新任教師となつて三月、それぞれの働きの場から離れて歩みを振り返るを共に、課題や悩みを語り合い、同労者としての新しい出会いと交わりの時となつた三日間であつた。

毎年恒例のこのオリエンテーションは、次の三つの課題を掲げている。

- ① 日本基督教団の「教師」像を探ること。
- ② 日本基督教団の「宣教」の内容を探るという。

③宣教を「共に」担う協力体制を探ること。

第一日目には、松井睦教師委員長による開会礼拝に続いて、「教団の歩み」と

初日の山北議長への講演「教団の歩み」は、大阪万博をめぐるって始まった「紛争」について触れられ、その問題点が指摘された。それと共に伝道が停滞し、教勢が低迷している現状分析がなされ、その上で、未来

小林副議長による「教団の教師像」の発題では、紛争によって自らが受験した教師検定が混乱した経緯から、教団の教師とは何かにについて考えてきたことが述べられた。教師を立てるののが教団という教会であること

一郎幹事、「出版局について」「有澤禧年出版局長、「年金局について」「高橋豊年金局長の話がなされた。

続いて「カルトの問題について」「岩崎隆教師委員が

近年、新任教師の年齢層が高く、今年度の参加者は比較的に若い教師が多く、教団の歴史について改めて知る時となったようである。

と、教師検定の意味、そして教団信仰告白、教憲および教規という枠組みについて、また、教え・福音・奉仕という教師としてのパラドックスを念頭に教会に仕えるべきことが語られた。

内藤総幹事の「教団の働きの」発題では、単に事務的に概要を語るのではなく、まず教会形成の基本・

土台について神学的に考察するところから語り始められた。そして全体教会と各教会の担うべき役割について、続いて教団の組織と働きについて、教師の役割について述べられ、すべては神の栄光のためになされると結ばれた。

退教師・無任所教師による伝道協力、憲法九条の堅持による平和国家形成のための努力など、具体的な構想が前向きに語られた。

一日目の夜は、ゲームを交えてお互いを知り合う交

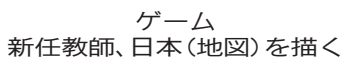
二日目午後の自由時間では、温泉に行くコース、近くの滝に散策に行くコース、軽スポーツに汗を流すコースが用意され、リラックした交流の時を過ごした。

わりの時がもたれ、場の雰囲気は一挙になごんだ。日本地図を参加した新任教師によって描いたことは大麥興味あるものであった。

また二日目の分団は、出身神学校とCコース出身者がそれぞれ偏らないように配慮して分けられ、お互いに知り合い、また理解す

るきつかけとなることを願ってなされた。新任教師と
言っても、その年齢や人生の背景は様々である。それ
が自己紹介の中でそれぞれから語られることによって、主の恵みを分かち合う
良き交わりとなったようだ。各分団とも実際の働き
の場に出るの説教や牧会上のとまといや悩み、また希
望なども語られ、豊かな時

島誠志教師(松山番町教会)に依頼した。自身の豊かな経験の中から、参加者の関心の高い説教や牧会上の苦勞などが失敗談を交えて語られ、十分ではない者でも主の恵みによって用いられていくことが証しされた。多くの新任教師の慰めとなり、希望が与えられたようだ。



つた。
最後に鈴木伸治教団書記の説教による閉会礼拝がなされ、参加者は縁に囲まれた会場をあとにし、帰路に着いた。

(小宮山岡報)

荒野の
▼昔々、ラッ
シュ時に隘路
に入り込み、
立ち往生し
た。ギリギリ
に寄せ、対向

来た車とドアミラー同士がぶつかった。大きくハンドルの切った対向車は、数十メートル先の畑地に突っ込み、畝をクッションにして止まった。▼車から降りた男が、いきなり「バカヤロ」と叫ぶ。当然、穏やかかな話し合いにはならず、警察官が呼ばれた。彼は笑顔で当事者二人の話を聞き、調停する。彼の結論。「まあ事故はお互いの責任、被害も軽微ですから、停車していた、一方的な事故だと

高い霊性こそが高齢者の伝道力

教区伝道委員長会議開催

第35総会期「教区伝道委員長会議」は、六月十一日（水）～十二日（木）大阪教会を会場に二七名の出席者をもって開催された。（京都教区、沖縄教区は欠席）開会礼拝において北紀吉伝道委員長は主題に沿って



前列左4人目から、岡本知之、山崎ハコネ、平井章各氏

「アブラム、七五歳」（創世記12：1～7）という題で御言葉を説き明かした。主題講演は、岡本知之氏（西宮教会）による「高齢者の課題と伝道」その導入において「老人問題」は経済的に豊かで、医療が行き渡り、平和な国にしか存在しないと語られた。年間の自殺者が三万を超える中でそのうちの35%が六〇歳以上、すると誰もが一人暮らしの孤独な老人の自殺率が高いと想像するだろう。しかし、最も多いのが三世同居のケースだという意外な報告を受けた。

それ故、高齢者問題の本質について岡本氏は「老人問題」は「老人の問題」でなく、「老人をめぐる関係障害」とし、「老いる自身と自分との関係」こそが課題の中身であることに気付くべきだと述べた。そして、教会はその課題にタミナルケアで勝負するのではなく、「霊性」（スピリチュアルケア）で勝負すべきだと強調した。神に委ねるという信仰、「神さま、これができなくなりありがとう」と祈れる高い霊性こそが高齢者の伝道力だと述べた。そして、高齢者への伝道の具体的な実践へのアドバイスとして、関わりを持つようになったら早期に家族と会って挨拶を交わし、理解を得ることの大切さを語った。

講演の後、山崎ハコネ氏（敬和学園大学・教務教師）から「からし種の家とマナの家」における実践報告（具志堅篤報）

京都教区と沖縄教区が欠席となったが他の十五教区からの伝道委員長等十五名を含む二七名が参加へ高齢者の課題と伝道」と題して、岡本知之氏の講演と二つの発題に学び、また各教区の伝道状況と活動を報告し合い、協議。

何らかの形で伝道ホームページを開設する方向で進めていく。継続審議とし、次回委員会までに他教団の公式ホームページを調査しておく。

大阪の繁華街「みなみ」にある島之内教会で

伝道講演会を継続・冊子発行へ

第5回伝道委員会

「高齢の信徒こそ、最も霊性が高く、伝道する力を持つている。講師である岡本知之氏西宮教会の講演に感銘を受けた教区伝道委員長

長会議に引き続き、六月十二日（木）～十三日（金）、大阪教会、島之内教会を会場として、第35総会期第5回伝道委員会が開催された。

諸報告に続いて審議された議案の中で、主なものを以下に挙げる。★教区伝道委員長会議総括の件

◎理念的な講演と高齢者施設現場からの発題で、研修のバランスが取れていた。◎各教区の伝道報告にはばらつきがあり、伝道に対する意識と活動にかなりのずれが生じてきている。また、信徒の減少に伴い、教師を招聘できない教会を多く抱えた教区が増えている。

部活解放全国会議終了後の六月十一日午後から十二日にかけて、岡山教会を会場に第35総会期第三回部落解放センター運営委員会が開催された。出席者は二八名。

まず、第十回全国会議の振り返りを行い、恵みの集会であった事を運営委員会を確認し、支えてくださった東中国教区の方々に感謝した。次に東海教区は、部落解放センターが沖縄辺野古への米軍基地建設作業に

計監事として担当して下さることとなった。運営委員の中で、吉川監事の長年のお働きに対し感謝の祈りが献げられた。

その他、部落解放センター報告、各教区の活動報告、全国会議の次回開催について、新キャラバンについてなどが審議された。二〇〇七年度の活動献金は目標額には届かなかったものの、六、七〇四、五三三円が献げられた事が感謝をもって報告された。次年度はぜひ目標に達するよう望まれる。なお第八回全国会議の中で起こった女性差別発言への取り組み報告を出すことになった。

講演会の翌日島之内教会を問安し、教会の建っている実際の街に触れることが出来た。飲食店が数多くあるいわゆる飲み屋街であると言ってもよい。かつては住宅地もあった。

講演の中で強く印象を持ったのは「繁華街、飲み屋街は悪魔の巷か」という問いかけである。およそ信仰とはかけ離れた

方を模索したが、西原氏とその教会であった。西原氏は教会の理解と協力の下で様々な方法を用いて、信仰と無縁に思える人々を教会に招き入れる試みを行なった。青

このあり方から何を学んで、主のご委託にこたえていくのか、深い思いが与

病んでいる魂のための「自殺防止センター」の場も提供もした。ありとあらゆる機会を伝道として用いたと言えよう。

西原氏は最後にこういう言葉でまとめた。「開かれる教会となるためには、異なる生き方、考え

方の人を受け入れるという痛みが伴う。それは主イエスの御跡に従うことであり、主の御業に与かる苦しみである。その苦しみが神の祝福となる」

街に開かれた教会のあり方を模索

あらゆる機会を伝道として用い

西原氏は最後にこ

病んでいる魂のための「自殺防止センター」の場も提供もした。ありとあらゆる機会を伝道として用いたと言えよう。

西原氏は最後にこ

病んでいる魂のための「自殺防止センター」の場も提供もした。ありとあらゆる機会を伝道として用いたと言えよう。

西原氏は最後にこ

病んでいる魂のための「自殺防止センター」の場も提供もした。ありとあらゆる機会を伝道として用いたと言えよう。

つたようだが、ドーナツ現象で住民は郊外へと移り住んでいる。人間の目から見れば、決して伝道に適した地とは思えないところ、西原氏は果敢にその町にある教会とし

年のたまり場としての「コーヒーハウス」、劇団公演の「島之内劇場」、落語の「島之内寄席」、夜の仕事の人のための「真夜中のクリスマス」など、これらは当時の先

病を押して御用に当たる西原明氏（元島之内教会牧師、現NPO法人国際ビフレンダース東京自殺防止センター副理事長）



病を押して御用に当たる西原明氏（元島之内教会牧師、現NPO法人国際ビフレンダース東京自殺防止センター副理事長）

十二年間、部落解放センターの会計監査をしていた吉川大蔵監事には二〇〇七年度分まで担当していただき、二〇〇八年度からは森なおさんが新しく会

内容への疑問、批判、そもそも運営委員会の声を聞かないままなされるこのよう

部落解放センターを支え、解放運動をさらに進めていくとの意気込みが印象に残る委員会となった。（多田玲一報・部落解放センター運営委員会書記）

神奈川

坪井節子弁護士による主題講演

准允式、高柳竜二議長の司式による

委員会は、第36総会期も同小委員会を続けるために「継続のお願い」を宣教委員会へ提出することを承認した。

また、委員会開催中に、三人の死刑執行があったことが報告され、総理大臣及び法務大臣宛に抗議文を出すことを確認した。さらに三日前に起きた岩手・宮城内陸地震に関しても情報収

できることを協議した。

今回は全国社会委員長会議後の委員会となり、全国会議の総括を行った。運営上の反省点も多々あった。

4年振りの開催となった
「障がい」を考える全国交流会

た。根柢を裏書きする会誌で、
つたと評した。(上地武報)

お詫び・訂正 新報四六五
三号二面東北教区総会の記
事中、『未受洗者配餐を承
認するのではなく、様々な
背景を持った合同教会とし
て、学びと対話を含めてい
く』件を、『宣教共働研
究所の見解を承認するの
ではなく、様々な背景を持
った合同教会として、学び
と対話を含めていく』件に
お詫びして訂正致します。

全国社会委員長会議・第5回社会委員会

また、各教区における社

会活動の内容を相互理解するためには教区報告の時の持つたが、事前にアンケートした「災害時の緊急対応マニュアルの有無」をめぐって、その必要性のあるなし

三人の死刑執行があったことが報告され、総理大臣及び法務大臣宛に抗議文を出すことを確認した。さらに三日前に起きた岩手・宮城内陸地震に関しても情報収

できることを協議した。

今回は全国社会委員長会議後の委員会となり、全国会議の総括を行った。運営上の反省点も多々あった。

た。根柢を意義ある全語で述べた。評した。(上地武報、お詫び・訂正 新報四六五三号二面東北教区総会の記事、)未受洗者配餐を承認するのではなく、様々な

背景を持った合同教会として、学びと対話を含めていく』件」を、『宣教共働研研究所の見解を承認するのではなく、様々な背景を持った合同教会として、学びと対話を含めていく』件」に「お詫びして訂正致します」。

牧師のパートナー

気がついてみますと、いつの間にか牧師館生活が三〇年を過ぎておりました。現在牧師は、北本教会で奉仕させて頂いております。北本は、野鳥の声が賑やかで、春はフラムの花が真っ白に咲き誇ります。牧師が米国へ留学中の二年半の間、家族は、教会の皆さんに色々お世話になり感謝でした。今牧師は教会と神学校との間を行ったり来たりして、相変わらず教会に支えて頂いております。

今まで、横浜ニッポ教会、中遠教会、上尾合同教会とお世話になって参りました。それぞれの教会の皆さんには、本当にたくさんの思い出を頂きました。車の運転が好きな私は、子供たちを乗せて、また教会員の方々をお乗せし、出かけて楽しかった事など思い出します。



石川栄一牧師と共に

教会の電話番号

石川ふみ子
(北本教会員)

そして、その交わりを通して信仰を学ばせて頂きました。毎朝教会のため、一人ひとりのために祈って下さる方々に、何かとお祈りを願いました。今は、私自身朝起きて、まず聖書を読み祈

なりました言葉の教室や保育園、養護学校のお友達や先生方、様々な方々にお会い出来まし

た。グループで染織の作品展もして、教会の皆さんも大勢見に来て下さいました。とても楽しかったです。

そして、今は作業所にお世話になっていま

す。時々バザーがあり行事や父母会も行なわれます。皆、娘、息子が大事で、いない生活など考えられないのです。皆、年を考える暇無く賑やかで楽しく過

っています。家庭内でも教会でも祈りの課題がたくさんで、個人的にも頼まれたりで、本当に、せつせつと心を尽して祈らせて頂いています。

さて、私は教会の留守番、電話番をしています。日曜日の朝、二階から元気に降りて、教会の扉を開け、新しい風を入れます。その時すでに、天上の奏楽の音が鳴り響くのを感じる耳で聞きます。それから玄関や庭をパッパと掃いて台所に回り、お湯を沸かし、礼拝後のお茶会の用意をします。礼拝の時刻になりますと、後ろの方でうるうるして、出席の方が少ないとがっかりしながら、エアコンのスイッチを入れたりしています。

教会には、様々な問題があります。集う私たちも様々な荷を背負って一週間を過ごしています。その一つひとつを礼拝において神様にお渡しして、後は、楽しく皆でお茶会をします。新来者に加わると、よい元気に楽しくなります。

牧師も私も何かと器用なたちではなく、神様に支えられ歩ませて頂いております。

何時、誰が教会へと導かれて来るのかわかりません。とても不思議な事です。遥か昔、十字架に掛けられた方を信じる受洗者が、今でも教会に与えられ続けている事に感動します。教会の電話番号は、時々昼寝していますが求める方たちの電話をいつも待っています。

「同志社神学協議会 2008」

■主 題 「会衆主義教会の伝統と合同教会の課題」

■と き 2008 年 8 月 25 日 (月) ～ 26 日 (火)

■と ころ 同志社大学今出川寒梅館および関西セミナーハウス

■講 演 本井康博さん (同志社大学神学部)

■発 題 藤崎義宣さん (久ヶ原教会)

山下慶親さん (熊本草葉町教会)

後宮敬爾さん (札幌北光教会)

◎案内、申込書を必要とされる方は、下記実行委員会までご連絡ください。

◎参加申し込み〆切：7 月 31 日 (木) 必着

〒617-0833 京都府長岡京市神足 1 丁目 18-28

日本キリスト教団 長岡京教会 韓 守信(はん すしん) 気付

「同志社神学協議会 2008」実行委員会

TEL・FAX:075-951-2207

出版局ニュース

http://www.bp.uci.or.jp

★七月の新作

『偶谷三書男信仰のことば』福田佳也Ⅱ編・四六判・二二〇〇円／経済学者、教育者、社会活動家として多義にわたり活動した著者が代田教会「キリスト教講座」で語った言葉を収録。

『イエスの福音にたえずむ』井上洋治・四六判・二五二〇円／西欧キリスト教を、日本人の身の丈に仕立て直して四〇年。著者が辿り着いた、キリスト教

の核心と境地。最新書き下ろし。

『教会を必要としない人への福音』W・H・ウィリモン／平野克己・笠原信一

訳・四六判・二二二〇円／強い人、人生を楽しんでいる人など、切迫した福音の必要を感じていない人に、

教会が語るべき言葉とは。

訂正 4654号3面事務局報欄、教会通信先変更住所「鹿児島県神石郡神石高

原町小島二六〇」を「鹿児島県鹿屋市横山町二六

五二二」に訂正いたします。

ひととき

田嶋 映二さん



1955 年、北海道生まれ、海外勤務、ぶどうの枝教会員

海外赴任を経て

田嶋さんと教会との関わりは、妻と娘を教会の礼拝へ車で送り迎えすることから始まった。そして教会生活をする妻の変化と娘の祈る姿を見て、信仰への興味を持ち、一緒に礼拝へ出席するようになった。だが、クリスマスになりました。でもこんな自分はないという一つの思いを持ち続けていった。

ある時、礼拝説教で導かれ、一つの切実な願いを必死で祈った。それはある意味では挑戦的な祈りであり、ヤコブと神との格闘のような体験であった。その祈りを通して与えられた息子に「信二」と名付けた。

その中、海外赴任が決まり、單身生活が始まり、熱病など死の恐怖を味わう出来事を幾度も体験した。もう駄目だと思っていた時に、聖書の御言葉に支えられた。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時にそれに耐えられるように、のがれ

る道も備えて下さるのである」(「リント第一 10:13」)。

大きな出来事を体験し、主なる神の存在を知らされた田嶋さんだったが、まだ、それまでの自分の培ってきたものや生き方を主に開け渡すことができなかった。しかし更なる海外赴任を前にして、価値観、人生観が変わる大きな決心へと導かれ、受洗の恵みに与ることへと導かれた。

現在は六回目の赴任地で、超教派の日本人クリスチャンたちで信仰の交わりを持っている。海外で働く者たちが共通の話題をテーマとし、一緒に食事や意見交換、互いに祈り合うことをしている。未信者の人もその会に導かれ、ここで多くの者がかつての田嶋さんのように、海外における辛い現実と直面し、聖書の御言葉によって救われたと語る。

合同教会の豊かさ

神奈川教区を最後に教区総会が

終った。差異はあるものの各教区

で未受洗者への配餐をめぐる論議

が展開された。

幾つかの教区では「勧告を取り

下げ、教団として聖餐について論

議する場を設ける」といった要望

に基づき議案が承認された。

それらは教団総会に提案され

る。従って第36回教団総会は、さ

ながら「聖餐総会」の様相を呈す

るであろう。

違法聖餐問題なんかを持ち込むから、営々と積み重ねてきた教区の一致を破ることになってしまう。昨今、一なる教会を強調する余り、一致の中に真理があるというよりも、真理においてのみ一致は可能であるとはボンヘッファーの言葉だ。多様性の豊かさが相対化による崩壊にならぬように願う。

「一致の中に真理があるというよりも、真理においてのみ一致は可能であるとはボンヘッファーの言葉だ。多様性の豊かさが相対化による崩壊にならぬように願う。」

(教団総会議長 山北宣久)